

平成18年度三番瀬漁場再生調査

I. アオサ

1. 発生状況のモニタリング（11月現在）

【目的】当該海域でアオサが繁茂する夏季以降に、その発生量と発生域を把握する。

【方法】平成18年6月から、毎月1回、20定点において、間口50cmのたも網で海底を2m引いてアオサを採取した（図1）。

採取したアオサの湿重量をもとに、全域の発生量を推定計算した。

【結果】アオサ発生量は、6月の調査開始時

から徐々に増えて、10月27日には推定約2,400トンと最大に達し、その後11月には約1,000トンに減少した（図2）。今年度の最大発生量は、大量に発生した昨年度と比べると約3割程度だった。調査点別では、8月には船橋の陸側で多く、9～10月には市川・浦安側で少なくなった（図3）。

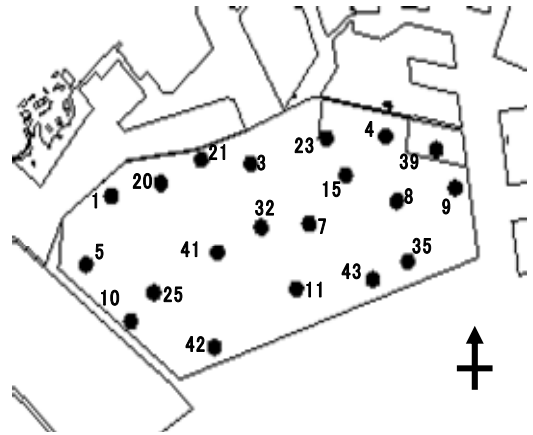


図1 調査点（数字は調査点番号）

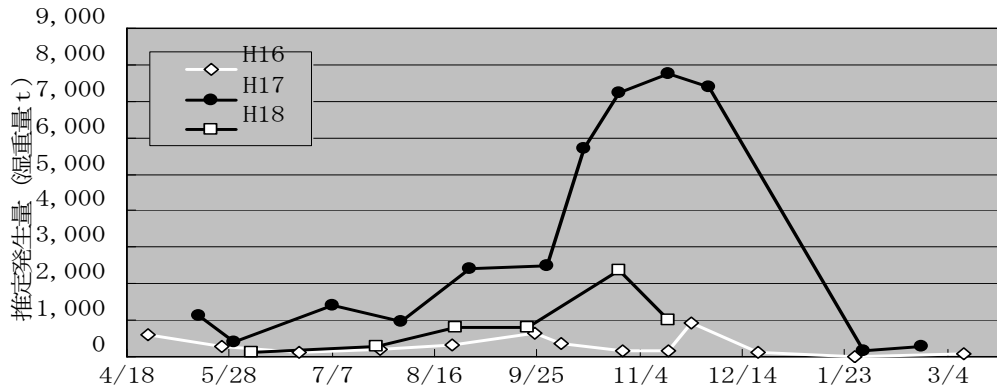


図2 アオサ推定発生量の季節変化（平成16～18年度）

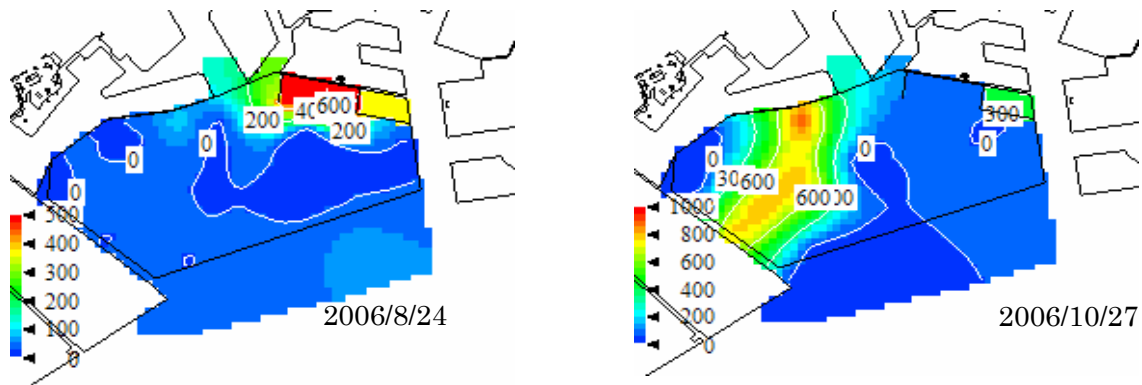


図3 アオサ分布量（数字は g/m^2 ）